

## カルチュラルセミナー(1)菅井ものづくり学校

相模原市藤野町の「菅井ものづくりがっこう」は、12月19日をもって閉校となった、地元のアーティストのアトリエ、健康菜園、クラフト教室そして何よりなおばちゃんの田舎料理・・・。地元のコミュニティーが形成されつつあったのに残念である。自然環境保護、地域の活性化そして新しい社会保障の試行の面からも何か大きなものを失ったような気がする。



旧藤野町の菅井小学校跡の「菅井ものづくりがっこう」



300円の昼食会



クラフト教室



最終回の参加者



地元アーティストの作品



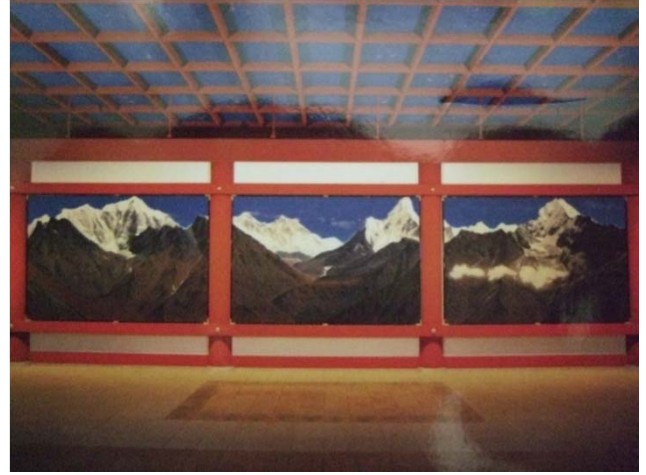
おばちゃんの鍋料理

## カルチュラルセミナー(2) 平山郁夫展

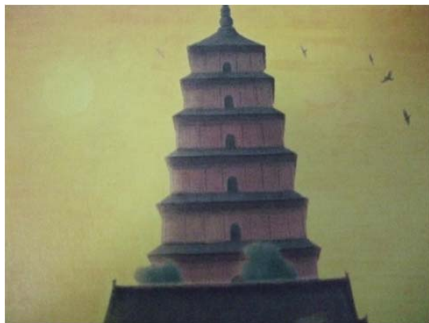
東京国立博物館平成館で平山郁夫の大唐西域壁画展を見た。「明けゆく大雁塔・中国」、「ナーランダの月・インド」、「デカン高原の夕べ・インド」、「嘉峪関に行く・中国」などが展示されている。何と云っても、「西方浄土 須弥山」の大壁画では、何枚ものエスキースから実物大の下図を作成して描かれていることに感銘した。その繊細な画法は、瀬戸内海生口島の平山郁夫美術館で、少年期の作品から知ることができる。



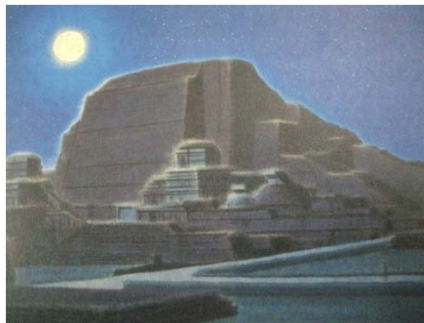
東京国立博物館平成館



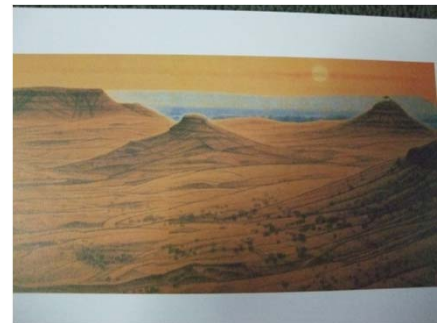
西方浄土 須弥山



明けゆく大雁塔・中国



ナーランダの月・インド



デカン高原の夕べ・中国



嘉峪関に行く・中国



生口島の平山郁夫美術館

## カルチュラルセミナー(3)星の王子さまミュージアム

箱根の仙谷原に「星の王子さまミュージアム」がある。そこには、作家サン＝テグジュペリの生活した風景と生涯が紹介されている。東日本大震災の後、これまでの自分の活動に疑心暗鬼になっていたの、何となく訪ねてみたくなった。

「心で見なければ、肝心なことは目に見えなくなる」ということを大人の社会は忘れていたのかもしれない。ミュージアムの中を歩いていて「像を飲み込んだウワバミのマンホール」を発見した。きっとパワースポットにちがいない。私の名前はワミである。



星の王子さまミュージアム



パワースポット？  
像を飲み込んだウワバミ

## カルチュラルセミナー(4)旭山動物園

旭川市の旭山動物園へ行った。札幌から昔の炭鉱地帯を走る高速道路で1時間半で到着する。50年前に汽車から見た景色とは全く異なっている。動物園は旭川の郊外で、周辺の山々は丁度紅葉の季節である。北斜面に立地するから景色の濃淡もはっきりしない。丁度山陰地方の山景を見るようである。園内は緩やかな傾斜で、シルバーシャトルも走っている。まだ、それに乗るような体力の衰えを感じていないから、多少の優越感を保ちながら園内を探索する。この動物園の特徴は、カプセルの中から身近に動物を観察できることである。昔の動物園と全く逆の立場になっていることを忘れてしまうことが愉快である。動物園から西へ6キロほどのところに「旭川ラーメン村」がある。ラーメンも一種の文化である。自分の好みの味を、店に期待したり、積極的に他人に進めたりすべきものではないことを認識すべきである。



旭山動物園



旭川ラーメン村



## カルチュラルセミナー(5)川崎市日本民家園

川崎市の生田緑地公園の中にある日本民家園に初めて行った。ここは多摩市から約15kmと近く、江戸時代から昭和初期の東日本の代表的な古民家が20数件移設されている。いずれも茅葺屋根の農家であるが、日本の気候・風土に培った伝統的な住まい方の工夫が見られる。深い庇による採光・遮光、縁側と吹抜けを有する開放的な居住空間、高土間床・側溝・池による雨水の遮断など自然環境との共生を見ることができる。これまで、エネルギー供給・空調・防犯・防火システムなど効率化のみを追求して、何の疑問を持たずに欧米志向のミニ居住空間に満足してしまった。武家屋敷にしか見られなかったはずの防犯システムが、今では庶民住宅の必需品で、一大産業となっている。戦後の政府の持家制度に誑かされ、永遠に資産の納税義務を負うことになった。「とかく人の世は住みにくい」とは、今の世になっても変わらない。



正門から宿場民家を望む



富山県江向家 (1700年代)



長野県佐々木家 (1731年)



岩手県工藤家 (1700年代)

## カルチュラルセミナー(6) 浅草の近代建築

浅草界隈には近代建築が多くある。平成24年の元旦に久しぶりに訪れた。浅草寺の表参道から順に風雷神門、仲見世店舗、宝蔵門、五重塔を左手に臨み本堂へと通じる。それらの建物は、関東大震災や太平洋戦争の被災を受けたために、鉄筋コンクリート造で再建されている。日本最古の遊園地「花やしき」、芸能人の手形で有名な「浅草公会堂」、神仏習合なごりの「浅草神社」そして、我妻橋からお台場までの豪華遊覧船「卑弥呼」、オンチビル、世界一の高さ634mの三次元トラス構造の「スカイツリー」がある。浅草寺周辺通りでは、ビニルハウスの屋台、浅草焼の天秤棒販売の名物兄ちゃん、そして観光人力車などにでくわす。浅草は何となくアンバランスな町だけど、何度行っても飽きない町である。



参拝客であふれる浅草寺表参道



仲見世のRC造店舗



RC造の風宝神門



3次元立体トラスのスカイツリーとオンチビル

## カルチュラルセミナー(7) 東海七福神

新年に東海七福神巡りをした。ここは旧東海道の品川宿跡である。大黒天を祀る品川神社をはじめに約1里を歩き3寺・4社をお参りした。旧東海道の1番目の宿場町ということだけど、旅籠、茶屋もなく、もちろん遊郭もない。昔の面影を見ることができないのが残念である。ところどころに、間口が狭く奥行きが広い空き地があるのが、何となく歴史を想像させてくれるだけである。地元の人々は地域ごとに幟をたてて振興に努力しているようであるが、地域間の利害の葛藤も垣間見られる。世界では民族や宗教の争いが絶えないが、我欲を捨てて日本の伝統と文化を守ってもらいたいものである。神仏習合こそグローバル化の踏み絵である。この地の神々はグローバルなのだから。



大黒天 (品川神社)



布袋尊 (養願寺)



旧東海道品川宿



寿老人 (一心寺)



恵比須 (荏原神社)



弁財天 (盤井神社)



福祿寿 (諏訪神社)



毘沙門天 (品川寺)

## カルチュラルセミナー(8)川崎宿

川崎はまだまだ復興にはほど遠い状況である。2月20日に旧東海道の川崎宿を歩いたが、川崎の歴史と文化に触れることができなかった。川崎宿は、六郷橋から八丁畷までの約2kmである。広重の浮世絵からは川崎宿の優雅な街並みをうかがうことができるが、関東大震災そして太平洋戦争の空爆などのために昔の街並は完全に失われてしまった。そして京浜工業地帯としての産業振興の重点政策の中で、その街並みは復興することがなかったのだろう。川崎市は多摩川の河口から北西に約30kmの川沿いの細長い街で、その先端で私の住む多摩市と接している。多摩川沿いには南武線が走っており、昔の砂利運搬鉄道が今では情報化産業が立地するハイテク鉄道に様変わりした。旧東海道のすぐそばには国道15号線が通っており、大型のコンテナ車が隊列をなして頻繁に往来する。八丁畷から川崎大師までの旧東海道を約4km歩いたが、茶店も、一服するところもなく、何となく経済活動から阻害された通りである。長年にわたって先人が築いた伝統・文化と経済社会システムとが融合できるゆとりがこれからの社会に必要なのかもしれない。



旧東海道川崎宿



広重の川崎宿 (NHKプロモーション)



六郷の渡し跡



川崎大師



## カルチュラルセミナー(9) 秩父事件

秩父事件の発端となった秩父市吉田町を訪れた。秩父事件は、明治17年に当時のデフレ不況、増税、欧州大恐慌によって困窮した養蚕農民の武装蜂起事件である。秩父の名物手作りロケットの資料が展示された「道の駅龍勢会館」には、映画「草の乱」のオープンセット、そして映画の主人公となった資料館として井上传蔵邸が併設されており、事件の様子を知ることができる。憲法制定・国会開設の準備下における明治政府と、自由民権思想に影響された農民との代表的な武力抗争である。

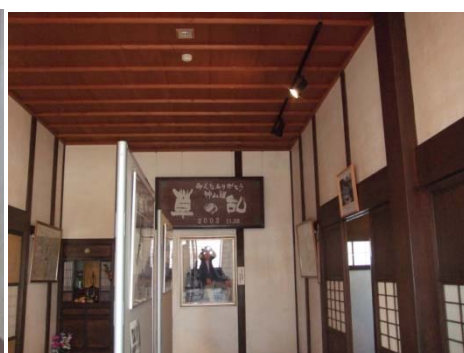
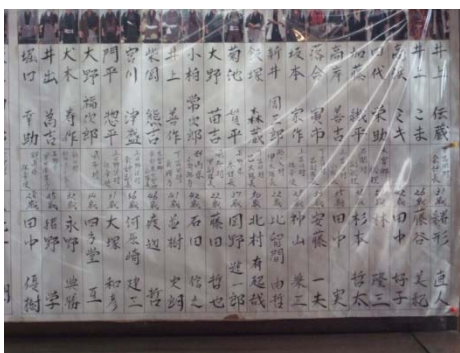
現在の政治の混乱やデフレ経済は、130年前の政治・経済の再現であろうか。政治・経済は時代に応じて何かと変化するけれど、進歩・発展する科学技術とは全く異なる世界である。あの伊藤博文は、当時47歳であったという。



草の乱オープンセット



秩父事件見学コース



## カルチュラルセミナー(10) 函館

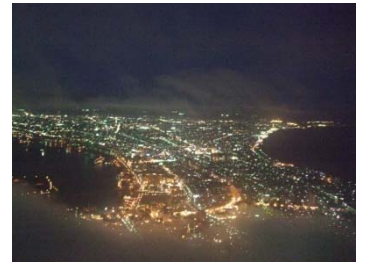
函館の一日は朝市から始まる。北海道弁丸出しのおじさんの講釈にのせられて干物を買うのもいい。青函連絡船に乗り継ぐために走った栈橋はもうないけれど、懐かしい摩周丸を見ることができる。元町の坂は相変わらずきつい。寺院・教会を見て、ロープウェイで函館山に昇り、それぞれの写真を撮るのが定番である。日本最古の鉄筋コンクリート造の寺院と電柱がある。電柱はもう博物館へ入れてやったほうがいい。函館戦争の中心となった五稜郭は、展望タワーから一望できるようになった。トラピスチヌとトラピスト修道院が昔と同じように無愛想である。郊外へ足を延ばすと、大沼公園、松前城、千代の富士記念館、世界一長い青函トンネルなどがあるが、駆け足で通り抜ける。函館は地域特有の資源に恵まれているけど、何故か静か過ぎる。



朝市のおじさんと



懐かしの摩周丸



函館山から見る夜景



五稜郭



大沼公園



日本最古のRC造寺院



ハリストス正教会



トラピスチヌ修道院



福島町の九重部屋の親方



日本最古のRC電柱



トラピスト修道院



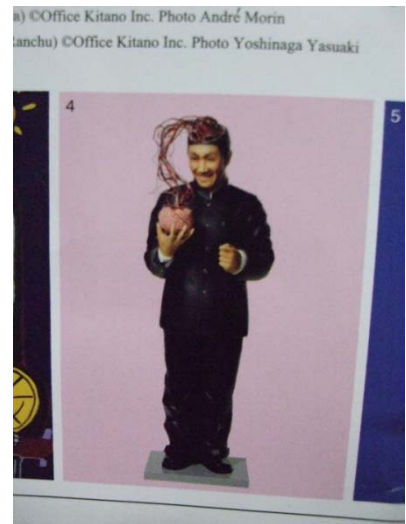
青函トンネル出入り口

## カルチュラルセミナー(11)絵描き小僧展

たけしは、やっぱり天才である。新宿のオペラハウスのアートギャラリーで「絵描き小僧展」が開催されている。平面的で、遠近感のない、色彩の豊かな絵に、何故か違和感を持つことがなく受け入れることができる。本人の「脳内構造の表現」から始まり、「動物や魚の内部構造」が繊細に描かれている。「花と動物」「魚と動物」「大切なものだけが強調された人物像」など、見るもの全てが納得させられる。多分、両親から受け継いだDNAと、幼児期の環境に育まれた感性が、このような表現となるのだろう。天才たけしの、繊細な脳内構造をここで見る事ができる。タイトルはないけど、自分で想像するのも楽しい。



アートギャラリー、エントランス



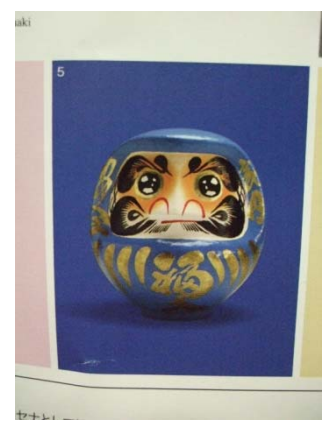
たけしの脳内構造



私はクジラから生まれた？



自画像



自画像



魔神？



お風呂のおもちゃ



カバになりたい金魚